

体操男子「金」



男子団体総合で優勝を決め、金メダルを手に笑顔の（左から）山室光史、内村航平、田中佑典、白井健三、加藤凌平の日本チーム
＝リオデジヤネイロ（共同）

団体、アテネ以来



内村の悲願達成

体操男子の団体総合で、日本は1960年ローマ五輪から78年世界選手権まで五輪、世界選手権で10連覇を達成した。その黄金時代の代名詞だった「美しい体操」のDNAを受け継ぎ、追い求め続けた内村を中心には、3大会ぶりで悲願の団体金メダルに輝いた。

28年ぶりに五輪で「金」を手にした2004年アテネ大会後は、中国に頂点を奪われ続けた。08年北京、

【リオデジヤネイロ共同】
リオデジヤネイロ五輪第4日の8日、体操の男子団体総合決勝で日本が優勝し、2004年アテネ五輪以来の王座を奪回した。1960～70年代にかけての5連

12年ロンドン両五輪はいずれも銀メダル。世界選手権、五輪の個人総合で7連覇中の内村は「団体総合で金メダルを取ることしか考えていない」と言い続けてきた。

昨秋の世界選手権、中国の7連覇を阻み、37年ぶりの頂点に立った。今大会の予選は4位と振るわなかつたが、内村が「世界で一番強いチーム」と誇ったメンバーが決勝で躍動した。

予選はミスが相次ぎ4位だったが、得点を持ち越さない決勝は全6種目に出現したエース内村航平(27)、コナミスポーツツツジが安定感抜群の演技で引っ張った。19歳の白井健三（日体大）も得意の跳馬と床運動で高得点をマーク。昨秋の世界選手権に統一して中国に勝ち、銀メダルだった08年北京五輪、12年ロンドン五輪の雪辱を果たした。

柔道 大野「金」



男子、2大会ぶり



女子57kg級で3位となり、銅メダルを掲げ
笑顔の松本薫=リオデジャネイロ（共同）

【男子73kg級決勝】アゼルバイジャンのルスタム・オルジョイ①を破り優勝した大野将平
=リオデジャネイロ（共同）

リオデジャネイロ五輪第4日の8日、柔道男子73kg級で大野将平（24）は旭化成が決勝でルスタム・オルジョイ（アゼルバイジャン）を下し、優勝した。今大会の柔道陣の金メダル第1号で、前回ロンドン五輪で優勝なしの屈辱を味わった柔道男子に待望の「金」をもたらした。



73kg級

【リオデジャネイロ共同】

女子57kg級で前回ロンドン大会金メダルの松本薫（ベネシード）は3位決定戦で連珍邦（台湾）に優勢勝ちし、銅メダル。地元ブラジルのシルバが優勝し、今大会で同国最初の金メダルを手にした。

松本「銅」

柔道では男女をあわせ平成生まれで初の金メダリストになった。昨年の世界選手権を制した大野は「お家芸」のエースとしての重圧を感じさせない闘いぶりで勝ち進んだ。複数の金メダルを有望視された柔道だが、大野まで頂点に立てずに停滞ムードが漂つた。4年後の東京五輪でも中心として期待される実力者が勢いを与えた。